



次々と土から顔を出した石垣（下段）
※石垣の前面にあるのは転落石

石垣（下段）一直線！

M区では、ようやく姿をあらわしはじめた石垣（下段）の検出作業が順調に進んでいます。石垣は約20mにわたって1～2段ほど残存していました。石垣のラインは定規で引いたように見事な直線です。石と石の間は「間詰石」により丁寧に隙間を埋めています。石垣の前面では黒い土により曲輪（お城の平坦面）



の面を整えていることもわかりました。450年間土の中で眠り続けていた小牧山城の石垣と曲輪。戦国時代に信長や家臣たちが見上げた石垣、歩いた地面そのものを、長い時を経て、今私たちは目にしているのかも知れません。調査現場は連日土と埃にまみれていますが、実はとても贅沢な空間とも言えるのではないのでしょうか。

発掘ひとくちメモ

～「この石どこから持ってきた？」～

小牧山城の石垣に使われた石材はほとんどが小牧山の山中から調達したチャートといわれる堆積岩の一種です。ごく一部に岩崎山から運び上げたと考えられる花崗岩も確認しています。